

第3回芥川作曲賞決まる

猿谷 紀郎氏の作品「ファイバー・オブ・ザ・ブレス（息の綾）」と
菊池 幸夫氏の作品「ピアノと管弦楽のための『曜変』」に

「芥川作曲賞」の第3回受賞曲は、8月28日（土）午後3時より東京・サントリーホールでの演奏会形式による公開選考の結果、猿谷 紀郎氏の作曲による「ファイバー・オブ・ザ・ブレス（息の綾）」と菊池 幸夫氏による「ピアノと管弦楽のための『曜変』」の2作品に決定した（演奏順）。2氏には賞状とあわせて賞金50万円がそれぞれおくられる。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念してサントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものである。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考するという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっている。

第1回芥川作曲賞は、高橋 裕氏の作曲による「Symphonic Karma（シンフォニック・カルマ）」に、第2回は、山田 泉氏の作曲による「〈一つの素描〉ピアノとオーケストラによるⅡ」に贈られている。なお、この日、公開選考演奏会に先だって、第1回受賞者・高橋 裕氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「Piano Concerto」の初演が行われた。

猿谷 紀郎（さるや としろう）

<受賞理由>

弦楽オーケストラの作品であるが、ソロを重視し、入念で複雑な書法を用いながら、音楽の流れはあくまで自然体であり、「音」そのもので伸びやかに語りかける新鮮さが高く評価された。

<略歴>

1960年7月26日東京都生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、84年ジュリアード音楽院に留学。パーシケッティらに師事。88年同大学院を名誉奨学生として卒業（修士号）。タングルウッド音楽祭に招待され、ヘンツェ、ナッセンらに師事。クーセヴィツキー音楽財団フェロウシップ賞を受賞。88年、〈二百万光年の孤独〉（カーネギーホール）、89年〈石と光〉（ドイツ・アルスフェルド音楽祭）を発表。92年ミュンヘンビエンナーレにおいて〈ファルーンの鉱山〉でBMWミュージックシアタープライズ（作曲賞）を受賞。93年出光音楽賞受賞。ユネスコ主催のインターナショナル・ミュージック・カウンシルにも選出された。

菊池 幸夫（きくち ゆきお）

<受賞理由>

極めて限定された素材を用いながら構造的、論理的な構成を達成しており、雰囲気的な要素や装飾性を排除し、若々しい感性を澆刺と聞かせた。

<略歴>

1964年5月25日東京都生まれ。83年東京芸術大学作曲家入学。86年に「第1回サクソフォンのための作品コンクール」(日本サクソフォン協会主催)にて優秀賞を受賞。受賞曲の<Saxophones' Studies>が同協会より出版。88年同大学卒業。91年同大学院修了。この時の修了作品が同大学図書館より買い上げとなる。92年日本交響楽振興財団第14回作曲賞入選。作曲を北村 昭、佐藤 眞、松村禎三の各氏に師事。他の作品に<管弦楽のための「群青の時」><ピアノと弦楽四重奏のための断章>など。

第3回芥川作曲賞 選考経過

1. 1993年5月10日(月)午後1時より東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて予備選考会を開催。1992年4月1日より1993年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品80数曲を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第3回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は一柳 慧、松村禎三、黛 敏郎の3氏。(50音順)

●鈴木行一作曲 筆箒とオーケストラのための森と星々の河
THE RIVER OF FOREST AND STARS for Hichiriki and Orchestra
(初演：1992.6.19「オーケストラ・アンサンブル金沢
第25回定期公演」)

●猿谷紀郎作曲 ファイバー・オブ・ザ・ブレス(息の綾)
Fiber of the Breath
(初演：1992.11.26「サントリーホール国際作曲委嘱
シリーズ No. 16」)

●菊池幸夫作曲 ピアノと管弦楽のための「曜変」
YOHEN for Piano and orchestra
(初演：1992.6.9「現代日本のオーケストラ音楽」
第16回演奏会)

(演奏順)

2. 1993年8月28日(土)、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏(指揮 小松一彦、新日本フィルハーモニー交響楽団、ピアノ 高橋アキ、筆策 八百谷 啓)。演奏終了後、15分の休憩をはさんで、直ちにステージにおいて3選考委員による公開討議を行なった結果、第3回芥川作曲賞受賞曲に、猿谷 紀郎氏の作曲による「ファイバー・オブ・ザ・ブレス(息の綾)」と菊池 幸夫氏の作曲による「ピアノと管弦楽のための『曜変』」の2作品が選定された。(演奏順)
3. 公開選考終了後直ちに同ステージにおいて贈賞式が行なわれ、サントリー音楽財団理事長・佐治敬三より賞状、賞金(50万円)が授与された。
なお、猿谷 紀郎氏と菊池 幸夫氏には、サントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成次第同財団主催のコンサートで初演される。(委嘱料100万円)

〔ご参考〕

「芥川作曲賞」について

1. 名称
「芥川作曲賞」
2. 選考対象
毎年、4月1日から翌年3月31日の間に国内で初演された(放送を含む)新進日本人作曲家による交響管弦楽曲の中からもっとも清新かつ将来性に富む作品1曲を選定します。
3. 選考委員
芥川作曲賞運営委員会(サントリー音楽財団より4名、日本作曲家協会より3名、計7名で構成)が数名の選考委員を委嘱します。(本年は、一柳慧、松村禎三、黛敏郎の3氏。)
4. 賞
 - (1) 賞状、賞金50万円。
 - (2) 受賞作曲家には新しい交響管弦楽曲を委嘱します。委嘱料100万円。
 - (3) 委嘱作品は完成後、サントリー音楽財団の主催する公演で初演します。
5. 選考方法
 - (1) 第一次選考会において、候補作品数曲を選出します。
 - (2) 公開演奏会形式で最終選考会を開きます。選考方法としては、まず候補作品数曲を一括演奏し、終了後その場で選考委員が公開討議を行ない、受賞作1作を選定、贈賞します。
6. 贈賞期間
1991年より2000年までの10年間に10回の贈賞を行ないます。

以 上